

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

田辺市立上芳養中学校 教頭 藤田万愉子

1. 単元名

「君たちはどう生きるか」 ～みんなが幸せな社会ってどんな社会？Wellbeing ♪～
--

2. 単元の目標

「みんなが幸せな社会ってどんな社会？」を考える課程で、人それぞれの「幸せの価値観」があることを知り、それを尊重しながら、みんなが幸せな社会を実現するために、自分がどんな生き方をしたいか考えることができる。

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「カンボジアってどんな国？」「カンボジアとリアルにつながろう」「みんなが幸せな社会ってどんな社会？Wellbeing ♪」「君たちはどう生きるか」を教材として取り上げる。異なる文化や背景を持つ人々の価値観や習慣に触れ、多様な価値観を受け入れ、自分がどう生きたいかを考える機会にしたい。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、幼稚園から共に育ってきている関係性もあり、生徒間の仲が良く、お互い助け合い、協力して課題に取り組むことができる。また、授業や教育活動に積極的に参加し、自分の意見やアイデアを共有することもできる。みんなが発言しやすい雰囲気がある。学級目標である「個性爆発、何事にも挑戦する」のように、前向きな態度で学びに取り組み、失敗を恐れず挑戦しようという姿勢が見え始めている。しかし、一方で、小さいコミュニティの限られた人間関係の中で育っているため、多様な考えや意見、価値観に触れる機会が少ない。

(3) 指導観

本学習では、小さいコミュニティの限られた人間関係の中で育っているため、多様な考えや意見、価値観に触れる機会が少ない生徒達が、実際に、開発事業を行っている JICA の活動について理解を深めたり、青年協力隊の方の話を聞いたり、カンボジアの中学生とリアルなコミュニケーションをとったりする中で、世界には多様な価値観があり、それらどの価値観も尊重されることが大切だということに気づき、自分の生き方を考える機会にしたい。

(4) ESD との関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…世界には多様な文化、価値観がある。

公平性…「日本さえよければそれでいい」や「裕福な日本は幸せ」「貧しい国の人はかわいそう」などの考えではなく、その人その人が感じる幸せが幸せなのだと感じてほしい。

- ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

イメージだけで他者理解をせず、「ちゃんと知る」ことで、ちゃんと考えることができるようになる。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

幸せの形は一つじゃない、相手も自分も、みんなが幸せだと思える社会を形成する一員になることができる。

進んで参加する態度

自分がどうありたいか考えたことを行動にうつすことができる。

- ・本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）

幸福感に敏感になる。幸福感を尊重する。

- ・達成が期待される SDGs

- 1、貧困をなくそう
- 4、質の高い教育をみんなに
- 8、働きがいも経済成長も
- 10、人や国の不平等をなくそう
- 16、平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア【知識・技能】	イ【思考・判断・表現】	ウ【主体的に学習に取り組む態度】
①異なる文化や価値観について基本的な知識をもち、多文化共生の重要性を理解することができる。 ②多文化共生のために活動している団体や人物について理解することができる。 ③英語で基本的なコミュニケーションをとることができる。	①ステレオタイプや偏見に対して批判的な視点をもつことができる。 ②異なる文化や価値観を尊重し、受け入れる姿勢をもつことができる。 ③異なる文化背景を持つ人々と効果的にコミュニケーションをとることができる。	①異文化交流の場で積極的に参加して、交流することができる。 ②異なる意見や視点を尊重し、建設的な対話を行うことができる。 ③自分自身の文化やアイデンティティーを理解し、他者との違いを認識しながら、ウェルビーイングな社

		会を構築にする態度を育むことができる。
--	--	---------------------

5. 単元の指導計画

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援	Δ評価
1	カンボジアってどんな国？		
	①カンボジアのイメージをロイロノートのシンキングツールで考え、共有する。(資料1) ②カンボジアを知る。 （JICA教師海外研修で見たことを話す。ネットで調べる。） （カンボジアの歴史（ポルポト政権）→日本の戦後の様子→JICAの活動（国際協力））	◇ICT 活用 ◇自分が見聞き体験したことを話す。	Δア① Δア②
2 3 4	カンボジアとリアルにつなごう		
	①自己紹介カードを作成する。 （自分が好きなこと、自分が今はまっているもの、日本の若者間で流行っているものも紹介する。リアルな日本の中学生を伝える。）	◇ICT 活用 ◇リアルな自分、リアルな日本文化を伝えるように考えさせる。	Δア③ Δイ③ Δウ①
	②カンボジアの中学生に質問する内容を考える。	◇前時に調べたこと、知ったことも振り返らせる。	
	③カンボジアの中学生と Zoom でつながり、交流する。 最後に「あなたは今幸せですか？」と質問する。	◇ICT 活用 ◇遠隔授業 聞き取るのが難しい。ちゃんと聞き取れる工夫を！	
5	みんなが幸せな社会ってどんな社会？ Wellbeing ♪		
	「国として豊かではないけれど、幸せを感じているのはなぜだろう？」 ①自分が思う「幸せな社会」をブレイ	◇多様な価値観を尊重する雰囲気をつくる	Δイ① Δウ②

6	ンストーミングする。グループで共有。価値観カードを作成する。	◇外部講師との役割分担をしっかりとる。	△ア②
7	②JICA海外協力隊の方のお話を聞き、「幸せな社会」の価値観カードを追加作成する。 ③カンボジアの中学生が思う「幸せな社会」の価値観を聞き、価値観カードを追加作成する。	◇ICT 活用 ◇遠隔授業	△イ②
君たちはどう生きるか			
8	みんなが幸せと思える社会にするために、自分は何がしたいか、どう生きたいかを考えて、宣言する。(プレゼン資料の作成)	◇価値観と行動の変容を観察する。	△ウ③

資料1 (ロイロノートのクラゲチャート)

